調達番号　26a00886000000
調達件名　タイ国レッドライン維持管理人材育成促進【有償勘定技術支援】

意見招請

対象国名：タイ国
業務名称：タイ国レッドライン維持管理人材育成促進【有償勘定技術支援】

標記案件につき、企画競争により、業務委託先を選定する予定です。つきましては、案件概要を公表し、同案に対するご意見・コメントを募集致しますので、下記の要領により意見をお寄せください。
頂いたご意見・コメントにつきましては、個別に回答は致しませんが、企画競争説明書へ適宜反映させていただきます。また、ご意見・コメントにつきまして確認させていただきたい点などある場合には、ご連絡差し上げる場合がございます。

1. 調達内容
   (1) 件名：タイ国レッドライン維持管理善促進人材育成促進【有償勘定技術支援】
   (2) 契約期間：2027 年 2 月～2027 年 12 月まで（0 年 11 か月）（予定）
   (3) 調達方法：企画競争

2. 特にご意見・コメントいただきたい点
   (1)技術支援の項目について
   円借款バンコク大量輸送網整備事業により整備されたレッドラインは、2021 年 11 月に正式開業しました。現在、事業主体であるタイ国有鉄道（SRT: State Railway of Thailand）及び運営主体であるタイ国有鉄道の 100%子会社 SRTET（S.R.T. Electrified Train Company Limited）が運営・維持管理を担っています。レッドラインでは 2030 年から本格的なオーバーホール（以下、「OH」という。）の実施が見込まれており、タイ政府は OH の実施及びこれに必要な人材育成を目的とする新規事業の形成を進めています。また日本政府は、国土交通省による「バンコク首都圏における都市鉄道政策及び車両保守に関する調査」（2025 年度）及び「バンコク都市鉄道車両保守に関する調査」(2026 年 4 月～2027 年 3 月)（以下、総称して「国土交通省調査」という。）を通じて、タイ政府の事業形成を支援しています。タイ政府、特に運輸省、SRT 及び SRTET は、本事業の実施に当たり、円借款の活用を視野に入れ検討を進めています。本専門家業務では、国土交通省調査の結果を踏まえ、SRT／SRTET が進め

るレッドラインの OH の実施及びこれに必要な人材育成について、先方政府による事業化検討に必要となる情報の収集・分析をし、SRT／SRTET が作成する事業計画等に対する技術支援や改善策の提案を行い、加えて技術支援を通じた能力強化を行うことを目的としています。つきましては、国土交通省調査の結果を基に円借款の活用を見据えたタイ側の事業形成への技術支援に必要となる項目（別紙１）についてご意見・ご提案いただけますと幸いです。

(2)業務実施体制について

効果的な事業実施に向けて、コンサルタントチームの構成等に関して、以下の点についてご意見・ご提案いただけますと幸いです。なお現時点では、約 18 人月を想定しております。

・想定人月案とその妥当性
・必要となる専門分野と専門家の構成
・現地業務と国内業務の人月配分

(3)現地傭人について

事業の目標や活動内容に照らし合わせ、以下の点についてご提案いただけますと幸いです。

・想定人月案とその妥当性
・必要となる現地傭人の専門分野と現地傭人の構成

(4)その他業務実施上、留意が必要と思われる点について

3. 意見の提出方法

(1) 提出先（業務内容説明会の参加希望連絡先も以下メールアドレス）

JICA 東南アジア・大洋州部　東南アジア第四課（担当：増田　京美）
電子メールアドレス：1rtd4@jica.go.jp

(2) 提出方法

様式は問いません。下記(3)の提出期限内に、上記(1)の電子メールアドレス宛に、電子データ（エクセル形式）での提出をお願いします。
電子メールタイトル「意見提出：タイ国レッドライン維持管理人材育成促進」

(3) 提出期限

2026 年 11 月 17 日（火）17 時 00 分（必着のこと）

別紙１：特記仕様書における技術支援の項目（案）
別紙２：案件概要表

調達番号　26a00886000000
調達件名　タイ国レッドライン維持管理人材育成促進【有償勘定技術支援】

別紙１：特記仕様書における技術支援の項目（案）

【情報収集を行う項目について】
　本事業はタイ政府が実施する円借款を念頭に置いた事業形成に関し、有償資金協力専門家を派遣し、実施機関が事業化を検討するにあたって必要となる情報の収集・分析を行い、実施機関が作成する事業計画に対する技術支援、及び必要な改善策の提案を行い、技術支援を通じた能力強化を行うことを目的としたもの。タイ側が国土交通省調査の結果を踏まえて作成する事業計画への技術支援となりフィージビリティスタディではないが、以上の背景も踏まえ、以下の項目について、タイ政府が実施する情報収集・分析、事業計画に対する技術支援・提案を行う。

1. 事業の背景と必要性
2. 適用される技術基準
3. 施工計画
4. 調達計画
5. 事業費
6. 事業実施スケジュール
7. 事業実施体制
8. 運営・維持管理体制
9. 運用・効果指標
10. 内部収益率（IRR）
11. 環境社会配慮
12. ジェンダー主流化
13. 気候変動対策（緩和策）
14. 本事業実施に当たっての留意事項の整理

調達番号 26a00886000000
調達件名 タイ国レッドライン維持管理人材育成促進【有償勘定技術支援】

別紙２

案件概要表

１．案件名（国名）

国　名： タイ王国（タイ）

案件名： レッドライン維持管理人材育成促進

（Enhancement of Human Resource Development for Operation and Maintenance for the Red Line）

２．事業の背景と必要性

（１）当該国における運輸交通セクター／バンコク地域の開発の現状・課題及び本事業の位置付け

タイ政府は、バンコクの渋滞改善に向け、1990 年代から日本の ODA を通じ都市交通計画を策定するとともに、都市鉄道の導入を進めてきた。2000 年代以降は、円借款によるブルーライン、パープルライン、レッドライン等の整備が進められ、現在、バンコクの都市鉄道ネットワークは総延長約 280km まで拡大している。近年では、JICA の技術協力プロジェクト「バンコク首都圏都市鉄道新マスタープラン（M-MAP2）策定プロジェクト」（2021～2024 年）を通じ、より精緻な需要予測に基づく鉄道マスタープランを作成し、今後都市鉄道ネットワークを 550km まで拡張する計画としている。

円借款により整備されたレッドラインは 2021 年 11 月に正式開業しており、維持管理は、レッドラインの事業主体であるタイ国有鉄道（SRT ： State Railway of Thailand）及び運営主体であるタイ国有鉄道の 100％子会社「SRTET」（S.R.T. Electrified Train Company Limited）が担っている。しかし国土交通省の「バンコク首都圏における都市鉄道政策及び車両保守に関する調査」（2025 年度実施）によると、SRT 及び SRTET は日常的な車両の維持管理は適切に実施できているものの、2030 年より本格化するオーバーホール（OH）の実施には、データに基づく OH 周期が未整理、技術者の能力が不足、必要機材が未整備、人材育成計画が未策定といった課題が指摘されている。円借款で調達の日本製車輌を今後も適切に運行するためには、OH に必要な維持管理体制の強化や人材育成計画、中長期的な保守体制の構築が急務となっている。これを踏まえて SRT はレッドライン維持管理の事業計画策定を進めており、国土交通省は「バンコク都市鉄道車両保守に関する調査」（2026 年 4 月～2027 年 3 月）を通じて同事業計画の検討を支援している。

本格 OH の実施、及び技術者の人材育成についてタイ運輸省（MOT）及び SRT は円借款を活用する意向を示している。しかし円借款活用による 2030 年の本格 OH の実施には、技術的検討の促進が不可欠であり、更には財務省公的債務管理局（PDMO）や MOT 等タイ政府内の検討や調整の迅速化が必要な状況となっている。

本専門家は、MOT・SRT/SRTET が進める OH の実施及びこれに必要な人材育成について、先方政府による事業化検討に必要となる情報の収集・分析をし、SRT/SRTET が作成する事業計画等に対する技術支援や改善策の提案を行い、技術支援を通じた能力強

化を図る。活動においては国土交通省が実施の調査結果を活用した技術的な検討や成果をベースにした技術支援を行うことで、日本の顔の見える支援であるレッドライン事業の開発効果の更なる拡大を図る。

（２）運輸交通セクター／バンコク地域に対する我が国及び JICA の協力方針等と本事業の位置づけ 、課題別事業戦略における本事業の位置づけ
対タイ王国国別開発協力方針（2024 年 9 月）における重点分野として「持続的な経済開発及び成熟する社会への対応」が定められ、渋滞緩和等の都市機能の向上、質の高いインフラ整備を支援するとしている。また、「対タイ王国 JICA 国別分析ペーパー」（2025 年 3 月）では、「産業の基盤となる社会・経済インフラの発展等の推進」を主要開発課題の一つであると分析しており、本事業はこれら方針及び分析に合致する。加えて、本事業は、グローバル・アジェンダ「運輸交通」に合致するほか、バンコク地域の交通渋滞の緩和や大気汚染による環境への悪影響の軽減に資することから、SDGs ゴール 9「強靭（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」、ゴール 11「包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」、及びゴール 13「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」に貢献するものである。
（３）他の援助機関の対応
レッドラインの維持管理に関し SRT 及び SRTET を支援している他の援助機関はない。
（４）附帯する円借款/海外投融資事業との関係性
本案件は、円借款「バンコク大量輸送網整備事業（レッドライン）」により整備されたレッドラインについて、今後実施される OH を見据えた維持管理改善事業の検討を支援するものであり、新規の円借款事業形成の促進を図ることから、有償勘定技術支援として実施するもの。

３．事業概要

（１） プロジェクトサイト／対象地域名：バンコク
（２） 事業実施期間
2027 年 2 月～2027 年 12 月を予定（計 11 カ月）
（３） 事業実施体制
SRT 及び SRTET に対し、短期専門家複数名（合計約 18PM）を派遣予定。

４．事業の枠組み

（１） 成果
成果１ レッドラインの OH 実施に必要な維持管理能力強化事業の概要検討が促進される。
成果２ レッドライン維持管理能力強化事業に係る技術的課題及び本邦技術活

用可能性が整理される。

成果３　円借款活用を念頭においた事業にかかる関係者間の合意形成が進み、事業形成が促進される。

（２） 主な活動

活動１－１　タイ政府及び国土交通省が実施する調査のレビューを行う。

活動１－２　タイ政府の、レッドラインにおける維持管理計画・人材育成計画を含む OH 実施のための維持管理能力強化事業の案件概要についての情報を収集・分析し、改善策を検討・提案する。

活動１－３　タイの都市鉄道にかかる政策・規制動向について、関係機関へのヒアリング等を通じて情報収集を行い、レッドラインの運営・維持管理及び今後の事業形成への影響を整理する。

活動１－４　以上の活動の結果を踏まえタイ政府による事業概要の検討・策定の促進を支援する。

活動２－１　レッドライン維持管理能力強化事業における技術面の課題と対応方策を分析・整理する。

活動２－２　レッドライン維持管理能力強化事業における日本の鉄道分野における技術・ノウハウ・制度等の適用可能性を分析・整理する。

活動２－３　本邦技術活用可能性（機材調達、人材育成、技術支援等）を含む技術的な検討を支援し、事業計画への反映を指導し、また改定案等の提案を行う。

活動３－１　PDMO、MOT、SRT/SRTET 等のタイ政府関係者間の新規事業検討に関する調整の促進を支援する。

以上